

増加するサイバー攻撃への備え  
セキュリティ人材の育成を

青柳 史郎  
あおやぎ・しろう  
[グローバルセキュリティ  
エキスパート (GSX) 社長]

標的型攻撃による情報漏洩やメール詐欺、ランサムウェアによる被害……。デジタル化が進む中で、経営トップの方々はサイバー攻撃がどこまで経営インパクトを与えるかを理解しなければならぬ時代となりました。

コロナ禍でテレワーク等が進み、企業は安全に社内ネットワークにアクセスできる環境整備を進めなければなりません。もはやセキュリティに対して資金を投じることは、コストではなく投資の一環として考える必要があります。中でも中小企業は生き残るためにもデジタルトランスフォーメーションは欠かせなくなっています。ところが、日本でのセキュリティ

人材は20万人足りないと言われていて、足元ではシステムエンジニアが100万人程いますが、セキュリティ人材に限って言えば、大きく不足しているのが現状です。人材不足の状況下でも大手企業は有事の際、駆けつけてくれるセキュリティ会社があります。一方、中小企業は放置されたまま。

何とかこの窮状を変えなければならぬ。それがサイバーセキュリティ教育カンパニーとしての当社の使命になります。そもそもセキュリティが日本で日の目を見たのは、ここ10年のこと。そのため、セキュリティ人材の教育はやっと体系化されてきたという状況にあります。昔は情報や資格におけるデファクトスタンダードは十分にありませんでした。

1997年設立の当社は元々コンサルティング会社として生まれ、2000年にセキュリティ部門が分離独立する形で誕生。実はその頃からホワイトハッカーによる脆弱性診断を手掛けていたのです。05年頃のJ・SOXブームで内部統制関連のコンサル

業が拡大して成長したのですが、09年のリーマン・ショックで経営環境が厳しくなりました。それを機にセキュリティ会社として再出発し、今に至っています。

特に当社が注力しているのがセキュリティ人材の育成です。当社の教育事業は「ECCoun-cii」と呼ばれるホワイトハッカーとネットワークセキュリティエンジニアの認定試験の講座が中心で、このトレーニングではグローバル基準のサイバー攻撃対策をいち早く日本に投入しています。

また、20年末からGSXオリジナルの「セキュリティスト(Security)」というセキュリティテストができる人材の認定制度も展開。9カ月でのべ600人に受講頂いています。受講者には企業のCISOやシステム担当者、CSIRT(コンピュータセキュリティに関する事故対応チーム)担当も多いですが、大半は国内大手のシステムエンジニアです。セキュリティを理解した上で、インフラ設計やアプリケーション開発をセキュアに行える人材を育成します。

もちろん、当社が提供するものは、単にサイバーセキュリティに関する技術を習得させるだけのサービスではありません。IT人材としての倫理観も学んでいただく講座も設けています。し、誓約書も交わしています。その代わり、これまで培ってきた当社のサイバーセキュリティ技術は惜しみなく提供しています。

当社は沖縄にニアシアアのセキュリティ拠点も構えており、10人を超えるセキュリティエンジニアを配置しています。ライトな仕事であれば沖縄から全国にサービスを届けることができるのです。つまり、地方でのセキュリティ人材の育成も進めています。こういった取り組みを通じ、全国の企業をサイバー攻撃から救う一助になりたいと思っています。

日本企業の多くはセキュリティリスクに対する備えが不十分です。サイバー攻撃でこれまで蓄えた利益が吹っ飛んでしまうこともあり得ます。自らの身は自ら守る……。それが大原則になるのです。